

家庭でできる南海トラフ地震への備え

1世帯1回限り

家具転倒防止器具の購入費用を補助します！

NEW



感震ブレーカーも補助対象に！

地震による火災を防ぐため、揺れを感知して電気を止める「感震ブレーカー」の購入費用も新たに補助対象となりました。

NEW



器具の取付費用も補助対象に！

65歳以上や障がい者のみの世帯など、自身で器具の取付ができない世帯を対象に、事業者が行う取付費用も補助します。

1 購入費用の補助対象者

丸亀市の住民基本台帳に記載されている方で、市税の滞納がない方

※申請は、**世帯主**の方に限ります。

※丸亀市内の**自宅に設置**した器具が対象です。

2 購入費用 + 取付費用の補助対象者

左記の要件に加え、以下のいずれかに該当する方

①65歳以上の高齢者**のみ**の世帯

②障がい者**のみ**の世帯

③障がい者と65歳以上の高齢者で構成する世帯

1 購入費用の補助額

補助上限額：**10,000**円(小数点以下切捨)

- 5,000円までは全額補助
- 5,000円を超える額は3分の2に相当する額

2 取付費用の補助額

補助上限額：**5,000**円(対象世帯のみ)

- 取付費用5,000円までを全額補助
- ※**事業者**が取り付けた費用のみが対象

● 申請の方法と流れ

1. 器具の購入と取付



購入後、市内の**自宅に設置**してください。
取付費用の対象世帯のうち補助を受ける方は、**事業者**に取付依頼をしてください。

2. 必要書類の準備



- ①領収書(レシート等)
- ②設置状況のわかる写真
- ③**世帯主名義**の口座情報
- ④申請書・請求書・口座登録書
※④は書類申請時のみ必要

3. 申請手続き



下記のオンライン申請フォーム、または危機管理課へ左記の必要書類①～④を持参もしくは郵送にて提出してください。

4. 補助金の振込



危機管理課から補助金の交付決定通知書をご自宅へ郵送後、指定の口座へお振込みしますので、通帳をご確認ください。

● 申請前の確認事項

- ⚠️ ポイントやクーポン等の割引がある場合は、割引後の額が対象となります。
- ⚠️ 取り付けていない器具は補助対象外となります。
- ⚠️ 「**購入費用**」と「**取付費用**」の補助金申請は、**合わせて1回限り**となります。
- ⚠️ 世帯主の氏名で申請してください。
- ⚠️ 世帯主名義の口座情報を提出してください。
- ⚠️ 購入商品や取付費など内訳が記載されたレシート等を提出してください。
- ⚠️ 購入したすべての器具が写るように撮影してください。
- ⚠️ 転倒防止機能付きの”家具類”は対象外です。

丸亀市HP



申請フォーム



■ 転倒・落下防止チェックリスト

優先的に確認しましょう！

□ 寝室 □ 子供部屋 □ リビング □ 台所

チェック項目	ポイント
□ 家具の置場を検討	<ul style="list-style-type: none"> 「寝る場所」や「座る場所」の近くには、なるべく家具を置かないようにしましょう。 避難経路がふさがれないようにするため、廊下・玄関・扉の前には家具を置かないようにしましょう。
□ 家具の向きに注意	<ul style="list-style-type: none"> ベッドなどに向かって倒れてこないよう、家具の向きを見直しましょう。
□ 家具の重心を下げる	<ul style="list-style-type: none"> 家具の上部に重い物を入れていると倒れやすくなります。重い物は下部に、軽い物は上部に置き換えましょう。
□ 家具の固定	<ul style="list-style-type: none"> 家具の固定には、様々な固定方法・固定器具があります。下の「主な転倒・落下防止器具」を参考に、固定方法を検討しましょう。
□ ガラスの飛散防止	<ul style="list-style-type: none"> ガラスの扉が付いている家具は、地震の際にガラスが割れ、中身が飛び出したり、割れたガラスで怪我をする可能性があります。窓ガラスも含め、飛散防止フィルムを貼るなどの対策をしましょう。


■ 主な転倒・落下防止器具

1 壁や柱に直接固定 (ネジ止め)するタイプ

壁の中の柱・間柱・胴縁や、家具天板の芯材等、ネジのしっかり止まる場所を確認してから固定をしましょう。

L型金具

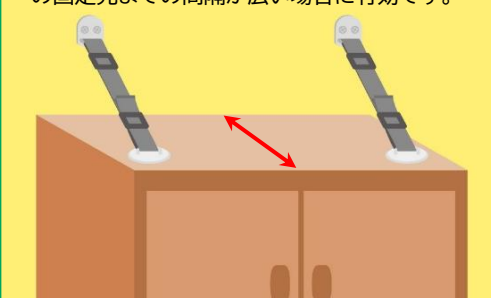
家具と壁をネジやボルトで直接固定する器具。下向きで取付できれば効果が高まります。



下向きで取り付けの場合

ベルト・ワイヤー式器具

冷蔵庫など壁との間に隙間がある場合や壁側の固定先までの間隔が広い場合に有効です。

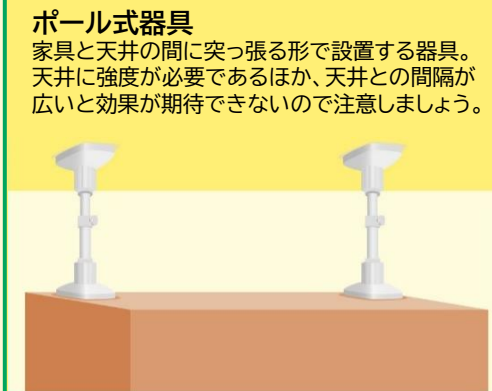


2 ネジ止めをしないタイプ

「ポール式」+「ストッパー式」など、組み合わせることで効果が高まります。

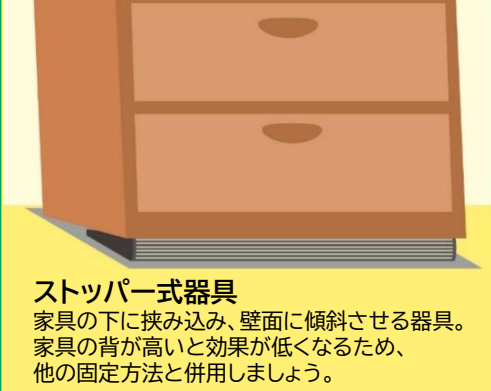
ポール式器具

家具と天井の間に突っ張る形で設置する器具。天井に強度が必要であるほか、天井との間隔が広いと効果が期待できないので注意しましょう。



ストッパー式器具

家具の下に挟み込み、壁面に傾斜させる器具。家具の背が高いと効果が低くなるため、他の固定方法と併用しましょう。

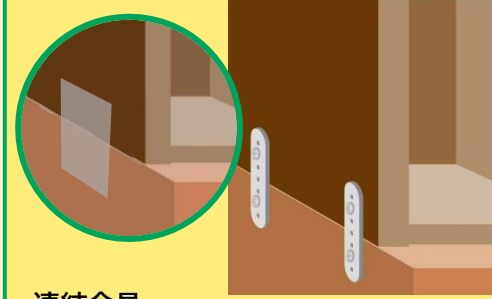


3 家具・収納物の落下を防止する器具

①や②にプラスして実施。様々な種類の器具があるので家具や状況に合ったものを選びましょう。

連結金具

上下の家具どうしを連結し、転倒防止する器具。ネジ止めタイプのほか、シートタイプもあります。



扉開放防止器具

扉の開放を防ぎ、収納物の落下を防止する器具。様々な形状のものがあるので、扉の使用頻度などを考慮して器具を選びましょう。

